

タイ日記 一時差2時間の異国一

鳥居正人（三重大学大学院生物資源学研究科 博士前期課程1年）

私たちはタイの北部であるチェンマイというところに行ってきました。寺院が多く、古い町並みが見られることから、チェンマイは「タイの京都」と呼ばれることもあるようです。2009年11月26日から12月5日の10日間滞在しましたが、昼間は30℃近くまで気温が上がり、半袖でも汗をかくような日もありました。また、気温が高いだけでなく、タイならではの激辛料理を食べることで、汗をかいた日もありました。

滞在中、チェンマイ大学で開催されている農業祭に参加したり、山で昆虫採取をしたり、タンジェリン（日本でいうみかん？）農家を見学させていただいたり、多くの場所へ行って参りました。さらに、象に乗るといって、タイでしか体験



できないような貴重な体験をさせていただきました。とても有意義な時間を過ごすことができ、時間が過ぎるのがとても早く感じられた滞在でした。しかし、どの場面でもタイの方々とのコミュニケーションには困りました。タイ語がしゃべれず、また英語での日常会話も満足にできない私にとって、コミュニケーションをとることはとても大変なことでした。しかし、このように考えているからこそコミュニケーションをとることに困るのだらうと気づきました。日本人とタイ人では話す言語が違うだけで、コミュニケーションをとる際に必要とされることは同じではないかと思いました。日本人と話すときでも、初対面の人と話す際には、まず挨拶から始まり、自分の自己紹介、相手の自己紹介があり、自分がどのような人で、また相手がどのような人なのかをお互いが理解しようとすると思います。今回の滞在中では、英語で話をしていても、私の言いたいことがなかなか通じない場面がありましたが、通じなくてもあきらめずに何度も挑戦してみると相手も必死になって聞いてくれました。その結果、なんとなくは意味を理解していただけたのかなと思うことがありました。また、英語で通じないときには、日本語で話をしていても会話の流れや現在の状況から、なんとなく意味を理解してもらえることがあるのではないかと思うこともありました。海外の方とコミュニケーションをとる際にも、何か特別なことを考えるのではなく、積極的、かつ日本人と話をするように気軽に話をしてみるということが重要であると感じました。さらに、満足に言語が使いこなせなくても、私にできる精一杯の力で何かを伝えようとする気持ちを持つことも重要であると感じました。



今回の滞在では、昆虫採取という貴重な海外調査を経験してきました。海外で調査するという事は、現地の方々のお世話になり、さらにはご迷惑をお掛けすることにもなり、とても簡単に行うことができるものではないと思います。今回の調査は、私が所属する研究室の伊藤進一郎教授が築き上げてきたチェンマイ大学の先生方との関係があったからこそ行うことができた調査であります。海外で調査を行うということにおいても、それに至るまでのコミュニケーションが重要であると感じました。

最後に、チェンマイ滞在中にとってもお世話になりましたチェンマイ大学の先生方、学生の皆様、特に **Sawai** 先生、**Sombat** 先生に記して感謝の意を表します。また、タイへ行く機会を与えてくださった三重大学大学院森林生物循環学研究室の伊藤進一郎教授、同研究室の松田陽介准教授にも記して感謝の意を表します。

